

114
A4208



第二百九十八号 四枚半

千八百七十四年十月三十日「シヤパン」ヘテ

「ド」新聞抄譯

フアンシスコ「ピエ」レ「テ」新聞ニ曰ク日本
ノ文化駁々乎トシテ進歩スルハ今ニ於テ世界
ヲ驚カシメ突ニ日本ノ人民ハ初メテ進歩ノ道
ニ入リシ以來未タ其歩ヲ駐メシ「ナシ」蓋シ文
部省ノ功績ノ如キハ其障礙ノ夥多ニシテ且恐
レヘキヲ考ヘ以テ之ヲ看ル時ハ古今ノ史乘中

大正十一年四月
限候郵寄贈

4214



最モ著レシキ者ニシテ是レ即チ日本人民ノ好
機會ニ遭ヘハ其才能ヲ發揮シ得ヘキノ明證ナ
リ抑江戶ノ国立学校ハ千八百六十八年政府ノ
保護ニテ之ヲ設ケ当初其学校ニ入リシ生徒ハ
拔萃ノオアル米國教師フルベツキ氏之ヲ預リ
シカフルベツキ氏ハ其後左院ノ傭トナリテ当
今政府立法局ノ法律相談人ノ重任ニ當レシ此
人ハ上等ノ語学者ニシテ其日本語ニ熟達セシ
、同氏ニ及フ者寡ナシ偕又右学校ハ其進歩速
カニシテ千八百七十二年ニ生徒ノ數増シテ六

百名ニ及ビ又右学校ノ規則及ビ所業ハ方今ニ
於テモニヶ年前ト異ナラス生徒ノ修業期ハ六
ヶ年ト定メ其間政府ノ費用ヲ以テ其教育ヲ為
サシム蓋シ右学校ハ諸學藝ヲ教ユルヲ趣旨ト
シ技術法律文學ノ三大科ヲ専門學ト為シテ生
徒ノ大ニ其諸科ニ熟達シタル者ニ非レハ進級
ヲ許サス而シテ此学校ハ真ノ諸學藝学校ト預備
学校トノ二局ニ分テタル者ナリ
抑日本人ノ學才ハ世人ノ普ク了知スル所
ナレハ今又敢テ此ニ贅セスト虽モ生徒ノ行狀

シ畧説記スルハ亦敢テ贅言ト称ス可クヲサルニ
因リ今此ニ之ヲ言フニ初メテ右学校ヲ開キタ
ル時ヨリ今ニ至ル迄生徒ノ罪ヲ罰セシハ唯僅
カニ一回ニ過キス而シテ其罪ハ強テ之ヲ咎ムル
不足ラスシテ唯笑ヲ催サシムヘキ者ナリ因テ
今其次第ヲ言フニ仏語ノ教師其嘗テ生徒某ト
隙アリシカ其教師教習室ヲ通行スルニ方リ右
生徒教師ノ面ヲ見テ故ヲニ己レノ顔ヲ曲ケ以テ
師ヲ嘲リタリ此ニ於テ学校官員直チニ右生徒
某ヲ退学セシメテ其國ニ追還シ他ノ生徒ノ戒

トシテ学校ノ簿ニ右生徒ノ姓名罪科懲罰ヲ貼
示シタリ

此一回ヲ除クノ外日本生徒ノ行状ハ実ニ年少
ナルニセントルメンニ適應セリ蓋シ日本人ノ斯
ク行状正シキ所以ハ其幼稚ノ頃ヨリ孝悌忠信
ノ道ヲ学フ為メ孔夫子ノ教訓ヲ記セシ大學中
庸小学等ノ書ヲ讀ミタルニ因レル者トス

右学校教師中ノ一名ハドクトルワイードルニ
シテ此人ハ嚮キニサンフランシスコ府学校ノ
教頭職ヲ勤メ当今右学校ニ於テ格物学教師ノ

任ニ当レリ又日本ノ当時ノ形勢ニテ公立学校ノ制度ヲ設ケルノ難キハ凡ソ近世各國ノ学制ヲ識レル人ノ容易ニ之ヲ解スヘキ所ニシテ苟キニ華威頓府男児中学校ノ助教トリシ桑港ノ
マツト氏三ヶ年前ヨリ右日本国立学校ニ雇
入レラレテ専ラ学制ヲ設ケルノ業ニ従事シ又
右学校ノ官吏ハ教員トナシニ適當セル人材ヲ
教育セント欲シ二年以前ニスコット氏ニ任ス
レニ師範学校設立ノコトヲ以テシ士族中ノ年少
者二百十五名ヲ選ミテ其生徒ト為シ又其外幼

年生徒二百名ヲ選ミテ師範学校ニ於テ教育ヲ
受ケシメ最モ幼少ノ者ハ函ヲ以テ之ヲ教ユル
トト定メタリ
日本ノ文字ハ重ニ支那文字ヲ借リ用フルト虽
其音ハ全ク異ナルニ因リ此西國ノ人民互ニ
言語ヲ通スル能ハス又日本婦女ノ書状ハ書キ
方ハ一種特別ニシテ全ク男子ト異ナリ又日本
人ノ刊行ニ用ユル文字ハ片假名メレハ支那文
字ト片假名トヲ混用スル書籍頗ル多シ
凡テ日本ノ公立学校ハ其功績實ニ驚ク可ク初

ハ男女ノ児童ヲ渾同シテ教育スル制度ヲ好
マサル者多シ又中學ノ智アル日本人ハ旧來ノ
口碑ヲ廢シ改米^各國ニ倣フテ其改革ヲ為
有益ナルヲ悟ルト虽モ或ル標度ニ過キシ婦女
教育ハ全ク無益ト思フタリ然ルニ近頃ハ此
頑論大ニ衰ヘ既ニ江戸ニ於テ女童學校二十ヶ
所ヲ設ケ又長岑神戸大阪等ニ於テモ女童學校
數ヶ所ヲ設ケタリ借又方今ノ学制ハ日本人民
皆之ヲ稱賛シ公立學校教育ノ便ハ日ニ盛大ニ
至リ更ニ高尚ナル学科モ亦之ヲ學ハント欲ス

者多シ蓋シ東京ノ國立學校ニ於テ不日大試
業ノアル由ナレハ其試業ノ為メ日本教育ノ進
歩更ニ速クナレニ至ル可シ

記 眞作權夫内史

